

光照院たより

発行：(宗) 光照院
発行日：令和4年5月18日
台東区清川1-8-11
TEL. 03-3872-8487
FAX. 03-3875-5485



光照院に安置された「明照観世音菩薩像」

ベトナムから海を越えてこられた観音様。国籍も人種も関係なく、互いを慈しみ合う平和な心の象徴です。

回心―罪惡の心を翻す―

住職 吉水岳彦

およそ十一年前に
きた東日本大震災以降、
毎年、読み返す本があり
ます。それは長崎で被爆
した放射線医師の永井

隆さんの本です。未曾有
の被害をもたらした福
島原発事故の影響を考
えたくて、もともと持っ
ていた本の他に数冊購

入しました。拝読するた
びに、原子力発電所の事
故も、原子力爆弾を用い
た戦争も、決してあつて
はならぬことだと思わ

されたことでした。特に『原子雲の下に生きて』につづられた子どもたちの手記には、何度も涙しながら、戦争と原子力―人の手に負えぬ大きな力―の恐ろしさを痛感させられました。ここに少し長文になりますが、当時五歳だった男の子が語った内容の一節をご紹介します。いただきます。

「――敵機――」と、小学校の屋上の見張りのおじさんが、どなつて、鐘をたたくのがきこえた。「ワッッ」と、運動場にいた人びとは、防空ごう目かけて、走ってきた。僕は、真っ先に、ごうの一番奥へ飛びこんだ。もうそのとき、ピカッ――と光ってしまった。そして僕は、強い風で、ごうのかべにたたきつけられた。…………。しばらくして、僕が防

空ごうから外を、のぞいてみたら——運動場いちめんに、人間がまいてあるみたいだった。運動場の土が見えぬくらい倒れていた。大ていは死んでしまつて、動かなかった。しかし、あちこちに、足をばたばたさせたり、手をあげる人もあった。動ける人は、はいながら、防空ごうの中に入つて来た。それで、ごうの中も、けが人でいっぱいだった。

とお父さんが来るのを待った。三十分もたつてから、お母さんがようやく来た。血だらけだった。お母さんはうちで、お昼のご飯の用意をしていて、やられたのだった。お母さんに、すがりついたとき、うれしさは、今もわすれない。お父さんは、待てども待てども現れなかった。警防団で朝から出ていった……。

生きていた者も、あとからあとから苦しんで死んだ。——妹たちはあくる日に死んだ。お母さんは——お母さんもそのあくる日に死んでしまった。それから——兄さんが死んだ。僕も死ぬと思った。——防空ごうの中で、ならんで寝ているだれもかれもみんな死ぬんだもの……。

《中略》——お父さんお父さん、お父さんの骨は、どこにあるのですか？どこに寝ているのですか？お父さん。あの朝、元気で出ていったきり……。

今、焼けあとにバラツクを建てて、お父さんと二人で暮らしている。お父さんは、もう六十を越した年寄りだが、働かねば何も食べられないので、浦上川の川じりへ、アサリをとりに行く。夕方ビッシヨリぬれて、帰ってくる。そのアサリを売って、二人は生きていく。むかしは店をひらいていた。ショウユも、シオも、ミソも、お菓子も、おもちやも、売っていた。それに、お父さんは、井戸掘りの名人で、いいお金をもうけた。僕たちは、良い着物をきていた。

もう一度、昔にかえして……。ああ、お母さんがほしい。お父さんがほしい。兄さんも、ほしい。妹たちも、ほしい。みんなが生きていたら……。雨のもらない家で、お父さん

も、こんなにむりに働かないで、僕も、楽しく勉強できるのに……。

戦争は、原子力爆弾の使用をしてもしなくても、この子と同じように、瞬時に大切な人や住まい、地域、生きていく術さえも奪っていきます。苦しみながら息絶えていく家族を目にしなればならぬことは、どれほどつらいことであつたでしょう。二度と戻らぬ幸せな日々を想う時、この子は失われたものの大きさと奪われた痛みを、生涯にわたって感じるようになるのです。加えて、自然災害や事故

ではなく、戦争という無差別な殺人によつて奪われたことで、この子の心には大きな憎しみを遺すことになったでしょう。

このように、歴史のなかで幾度となく繰り返されてきた戦争によつて、どれほどの苦痛と憎しみを生み出してきたかをみな学んできているはずなのに……。

今年の二月二十四日、ロシア兵たちがウクライナに侵攻し、あつという間にウクライナは戦火に包まれ、連日、メディアを通じて、その惨状が伝えられています。犠牲者は、ウクライナとロシアの兵士だけでなく、大勢のウクライナ的一般市民にも及び、国外避難者も侵攻から二カ月で五百万人以上にのぼります。さらに、かつて大きな事故を起こして世界的に注目を浴びる

ことになった、チェルノブイリ原子力発電所がロシア軍によって制圧され、その影響が懸念されています。

一方、ウクライナへ侵攻したロシア兵たちの中からは、「まさか軍事演習ではなく本場の戦闘に向かうことになるとは思っていなかった」等の困惑の声が漏れ伝わってきています。これもまた、恐ろしいことです。上官の命令であるとはいえ、多くの人を殺すという罪を犯すことになるのです。殺人の罪を犯せば、その記憶は生涯にわたって自己を苛さいなみ続けます。戦争を経験した方が病気で亡くなるとき、宗教者を病室に呼んで、「聴いてほしいことがあるんだが、家族には内密にしてほしい」ということがあります。若き日に、自分の家族や町、国を守るために戦場

に出なければならなかったものの、敵国の人を殺したことの後悔が心に残り、最期まで本人を苦しめていたのです。誰にも話せず、独りでずつと苦しんでこられたことを思うと、身を守るためとはいえ、戦争で誰かを傷つけることもまた、大きな苦しみの種になることを教えられます。

では、この大きな苦しみを生み出す戦争を最終させるためには何が必要なのでしょうか。さまざまな有識者は、ロシアへの経済制裁を徹底することで、困ったロシア国民が大統領に戦争の停止を迫るよう促すのが良いなど、意見を述べています。それはもちろん有効な手立てなのでしょうけれども、本当に大統領一人が変われば、この争いは終わるのでしょうか。

当たり前のことです

が、たった一人が争うと言いついても、それに従う者がいなければ戦争にはなりません。他者を傷つけてでも自分たちの名誉や面子、利潤を守ろうとする我欲がそこにあります。

そして、大統領が停戦の号令を下して表面的には戦争が一時休止していたとしても、恐れや憎しみという争いの火種は永くくすぶり、さらに大きな戦争を引き起こすほどに争いの炎を燃え上がらせてしまう可能性が生じてきます。尽きることもない恐れや憎しみが世の中に蔓延しているかぎり、自分たちの平和や正義を守るためといいながら、愚かにも戦争を引き起こすという矛盾を繰り返してしまふのでしょうか。

だからこそ、わたしは大統領などの責任ある人たちだけではなく、す

べての人に、他者を傷つけようとする心を捨てて、慈愛に生きる道を選ぶ「回心」が必要であると思うのです。これは理想論かもしれませんが、ですが、少なくとも宗教者は、すべての人の救いに結びつくことならば、たとえ不可能と思われるような事柄でも、成し遂げるために真剣に立ち向かっていくことを忘れてはならないでしょう。そして、真に自らを救い、他者をも救うことになる、一切のいのちある者の平和な世界の実現を願って行動してゆくことは、宗派を問わず、佛法を学ぶすべての者に求められることではないでしょうか。

この世においては、怨みに報いるに怨みをもつてしたならば、ついに怨みの息やむことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠

の真理である。

とは、お釈迦様の言葉です。そして、法然上人が出家を志すきっかけとなった父親の遺言の内容そのものであり、かつてスリランカが日本の戦争責任を問わないと明言した折のスピーチで引用された教えでもあります。すべての人が「怨み」という他者を傷つけようとする心を捨てたり、あらゆるいのちに慈愛をもつて接するように回心することが、争いがやむ唯一の道だということなのです。これは時代や国によって異なるものではない、まさに永遠の真理であり、永遠の理想であり、向き合い続けなければならない人類共通の課題なのではないでしょうか。

翻って、自己の生きる世界を見つめ直すとき、会社でも学校でも、家庭でも絶えず争い、互いに

傷つけあっている姿が容易に浮かびます。国とは比べ物にならぬほど小さなコミュニティのなかでさえも、わたしたちは争いを離れることができないのです。そのようなわたしたちが戦争に巻き込まれたならば、どうでしょう。かつてのナチスドイツの残酷な行為を聴いて、自分だったらそれに加担しないと思う人は多いかもしれませんけれども、果たして、どれだけの人が狂気に走る国家や集団に ^{あらが} 抗ってノーと言えるでしょうか。自分自身がどんなに争いから離れたいと願っていても、家族を守るため、自分が生き残るために、意にそぐわぬ命令のもとに人を殺すことさえあるのです。まことにこの世は煩惱の穢れや争いの心で満ちた苦界であり、極楽浄土とは真逆の

世界と言わざるを得ません。そして、そんな世界で、すべての者が怨みを捨てて、慈愛と平和を心に生きるよう回心することなど、絵空事でしかないのかもしれない。しかし、それでもなお如来様は、わたしたちが争いの炎を燃え上がらせ、苦しみを増していく生き方から離れることを望んでくださり、わずかでも慈愛や平和へと心向けられるように導いてくださいます。道を踏み外すわが子を叱りながらも涙して抱きしめるように、如来様は過ちを重ねずには生きられないわたしたちのような凡夫の悲しみを、わがこととして受けとめ、嘆きながらも手を離さず、そばにいてくださいます。わたしたちが恐ろしい怒りや怨みが燃え盛る心のままに、その御名を口にすれば、

如来様は清浄なるお慈悲の懷に入れて慰め、自らの力では捨て去ることができなかった怨みや争いの炎を鎮めてくださいます。自身の犯した罪の重さに耐えられず苦しい時には、その重荷を共に背負い、お念仏を申すわたしたちのつらい心をやわらげてくださいます。そのように、お念仏を申して如来様に自ら親しみ近づくうちに、わたしたちは無条件の慈愛をもつて抱きしめてくださる存在を肌感じてまいります。そして、できるだけ悲しませることがないように、その願いに応えて生きていこうと、少しずつ変化してゆくのです。

てはならないのです。怨みや怒りに翻弄されて戦争が起きる世の中だからこそ、かつて父を殺された法然上人が、お念仏の声のうちに、その怨みから誰かを害そうとする罪惡の心を翻し、如来様の慈愛で満たされたことを善きお手本として、できるかぎり如来様の願いに応じて生きようとするのが大切なのです。 合掌

施餓鬼会について

拙寺では、六月十二日（日）に檀信徒の皆様や近隣寺院住職をお招きして、施餓鬼法要を厳修する予定です。

ただし、昨年同様に、密閉・密集・密接の三密回避のため、法要を二回に分け、換気と手指消毒、マスクの着用などの感染症対策を徹底して実施いたします。

また、施餓鬼法要の様子は、YouTubeというインターネット上で動画を見られるところに「浅草山谷光照院」のチャンネルを用意してございます。リアルタイムではなく、翌日の配信になりますが、もしよろしければご覧いただき、ご一緒にお念仏をお称えくださいませ。

なお、お塔婆のご回向も行いますので、大事をとってご欠席なさる場合にも、お寺にてご先祖様やご縁の方のご供養を行いますので、ご安心くださいませ。

まずは、皆様が心身ともにお健やかであることと、早く安心して暮らせるようになることをお祈り申し上げます。

住職 拝



《日程》

六月十二日(日)

十時	法話①
十時半	法要①
十一時半	終了①
十二時	平和祈念
十四時	法話②
十四時半	法要②
十五時半	終了②

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

※三密を避けるため、法話と法要を二回行います。お越しただけの場合は、どの時間にお越しになるかを同封のハガキにてお知らせくださいませ。

※各法要は、およそ二十名までとし、

お申込みの先着順で割振らせていただきます。

※当日の昼食のご用意はございません。

観音像ご安置と祈り

昨年十二月、光照院にて得度した徒弟の明徳君はベトナム出身で、家族や親族、友人たちもみな熱心な佛教徒です。彼の出家を喜んだご縁の人々が、なんとベトナムにて二、五メートルの観音菩薩像を大理石で制

作させ、日本の光照院にご寄贈くださいました。純白のお姿は、わたしたちの心の奥底まで明るく照らす、無垢清浄な観音様の光明の色でもあります。美しい尊像を前に手を合わせるとき、国の違いなどまったくどうでもよいと感じます。佛法で結ばれたご縁



完成した光照院墓地のスロープ

車イスや手押し車でも、参拝できるようになりました



の中で、互いに慈しみ合うことの大切さを教え、てくださる観音様は、「**明照観世音菩薩**」と名づけられました。これは、『観音経』の「無垢清浄光慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間」という文と、**法然様**の**大師号**の「**明照**」から頂戴しました。また、徒弟の明徳君の「明」と光照院の「照」でもあり、かつて光照院で行われていた「明照こぼと子ども会」の名前にも重なります。施餓鬼会の一座目と二座目の合間には、この明照観音様の前で、短いながら「**平和祈念**」の法要を営みます。ウクライナやミャンマーなど、争いによって苦しんでいる

る方々のことを想って、一緒にお手を合わせていただければ幸甚です。

お盆について

光照院における盆供養につきましては、ご参列は各家二名までとし、一座の法要に十軒までお受けします。

棚経も昨年同様に、感染に不安を感じている方には、遠隔でのご供養を行う予定です。

遠隔のご供養の場合は、「LINE（ライン）」等の無料通話を活用してご自宅のお佛壇や佛画の前にお座りをいただき、法話を聴いていただいた上でご供養をさせていただきます。

ラインでの法事は、外出もなく、遠隔地でも行えて、複数のお宅からでも参加可能なため、親しい人との関係を断つこ

となく、安心して行えるということ、予想以上に良かったとのことのご感想をいただいています。

どんな形であれ、ご供養を一緒に行うことを通じて、皆様にご自宅での日々のお祈りの仕方等もお伝えできれば幸いです。

ちなみに、ラインを用いた法要については、どうか遠慮なくお寺にご相談くださいませ。

住職拝

墓地スロープ完成

今年の春彼岸、ついに光照院墓地のスロープが完成しました。先代住職が計画してから三年、コロナ禍の影響もあってなかなか工事に至らなかったのですが、総代・世話人の力強いご協力と、檀信徒の皆様の応援のおかげで工事を完了できました。

このスロープの他、光照院の屋根の防水工事や観音像安置場所の整備など、幾力所もの工事を同時に行うことにもなったのですが、これも、先々代住職内室十七回忌供養のための、先代住職夫妻からの布施と、総代・世話人の皆様からの大きなご寄進のおかげで実行することができました。

この場をお借りして、ご尽力を賜りました皆様に篤く御礼を申し上げます。感謝合掌

光照院の僧侶養成

昨年度度した明德君に続き、今年の二月末、住職の台湾仏教社会福祉研究に協力をしてくれていた台湾在住の女性、光照院にて出家得度を致しました。江連悠恩さんといいます。まだ日本のお寺のしきたりや習慣には不慣れです

が、一生懸命に修行をしています。

また、昨年からお寺を手伝ってくれていた真言宗僧侶の二瓶聖卓さんも、いまは浄土宗僧侶になるべく、光照院にて研鑽を積んでくださっています。

思いがけず、光照院にて複数の僧侶養成を行うことになりましたが、檀信徒の皆様には、どうか温かい目で見守りを賜りたくお願い申し上げます。



光照院で修行する三名と住職

光照院の諸活動

長引く新型コロナウイルス感染症の流行のため、いまも困窮される人は増え続けています。

昨年末から光照院では、仕事も住まいも頼れる人も失った人のために、一泊分の宿泊費や交通費をお渡しし、翌日には生活再建の相談につながる「せかいビバーク」という活動の拠点の一つにもなっています。そのため、二十代から四十代で行き場を失った

方々もお寺に駆け込んでくるようになりました。切羽詰まった状態で相談に来る若い方のほとんどが、家族との関係性が希薄になっていたり、十代のうちに両親が他界していたりと、がんばろうと思っても、がんばる土台となる人間関係を失っていました。安心できる居場所や人間関係を早く再構築してもらえるように願います。まも訪ねてくる人をできるかぎり受けとめられるように努めています。

また、子ども支援NPOと協働して、毎月子ども極楽堂にてフードパントリー(困窮家庭などへの無料の食品配布)を行っています。さらに、在日外国人への食糧支援も続けています。

こうした活動が継続できているのは、ひとえにこのお寺を護持して

くださる檀信徒の皆様のおかげであると感謝しております。いつも本当にありがとうございます。

貧困・子供支援御礼

日頃より、光照院や住職の行う生活困窮者や子どもの支援活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。昨年、多くの檀信徒様から頂戴したお寺へのお供物やご支援の品を困っているご家庭や外国籍の方々に活用させていただいています。この場をお借りして感謝申し上げます。今後も光照院では、人と人がご縁のなかで支え合える「支援」の場を設ける所存です。皆様のご理解を賜れば幸いです。

合掌

光照院行事予定

二〇二二年

●六月十二日(日)

施餓鬼会法要

●七月十三〜十六日

お盆(新暦)

●八月十三〜十六日

お盆(旧暦)

●九月二十〜二十六日

秋のお彼岸

●十一月十三日(日)

十夜放生会法要

※これはあくまでも予定です。コロナ禍の影響で変更することもあります。

※お盆の法要や棚経は、九日〜十六日くらいの期間に行います。

お念佛会

ねんぶつかい

光照院では、毎月お念佛とお写経を行う会を行っています。開催日は、基本的には毎月第三土曜日の十五時から二時間を予定しています。



本堂に断熱防音の二重サッシがはいました！

現在はオンライン参加と現地参加(少人数)の二つの方法で続けております。夕方の十六時半からYouTubeの「為先会のお念佛」というチャンネルにて、ご参加いただいています。もしよろしければご参加をお待ち

しております。

〈念佛会の流れ〉

十五時 写経

十六時半 法話

十七時 念佛回向

十八時頃 終了

※写経は現地参加のみ

盂蘭盆会のご案内

本堂で行うお盆の御
回向の日時を定めまし
た。ご希望の方は六月末
日までにご連絡下さい
ませ。お塔婆もあわせて
お申し付け下さい。

〈盂蘭盆会日時〉

- 七月十日（日）
十一時・十三時・十五時
- 七月十三日（水）
十一時・十三時
- 七月十五日（金）
十一時・十三時

※ご出席の場合、御位
牌を必ずご持参下さい。
※オンラインもご相談
下さい。

お寺のライン登録

左記のQRコードか
ら登録をお願いいたし
ます。ラインは住職の名
前「吉水岳彦」になって
います。ご不明な点があ

れば、遠慮なく光照院に
お電話くださいませ。



編集後記

連日、ウクライナで続
く激しい戦闘の映像を
目にしていると、具合が
悪くなるというお話を
耳にします。私たちの心
と身体は不可分で、私た
ちは目や耳を通して触
れたものの感覚を心に

送っています。自分が
争わずとも、他者の怒
りや怨みの心に触れる
だけで、心は疲弊する
のです。心に痛みを抱
えている大勢の人が、
喜びで心を満たせる日
が早く来ることを切に
願います。（住）



床の間のある一室を模様替え致しました。今後は
こちらで法要を営むこともできます。

お佛具料ご寄進

- | | | | |
|---|---------------------------------|----------|--------|
| 爲 | 徳風院調管清鍊心華大姉霊位 | 一周忌追善菩提 | 一金参拾萬圓 |
| | 施主 林峰子殿 | | |
| 爲 | 光照院墓地参詣者用スロープ等 | | 一金壹百萬圓 |
| | 施主 総代・世話人 高田明殿 宮本健一殿 高崎永子殿 林峰子殿 | | |
| 爲 | 知光院菊管紫雲常薫大姉霊位 | 十七回忌追善菩提 | 一金参拾萬圓 |
| | 施主 吉水裕光 明美 | | |